

移住先として選ばれにくい市町村の特徴として、「仕事がない（職種が限られている、給与が下がる）、家賃が高い、車が必須、自然災害が多い、閉鎖的」が挙げられました。



NPO法人
ふるさと回帰支援センター

【宮崎県えびの市】

えびの市は市内唯一の県立飯野高等学校と連携し、平成23年度から就職等の支援を目的とした、公営塾の設置事業、各種検定・進学・就職対策の経費支援事業、通学支援・学生寮整備事業、高校魅力化コーディネートターの雇用など、飯野高校との連携を密にし、県教育委員会と市教育委員会の協力体制をとれるよう、県と市が試行錯誤しながら積極的に支援策を整えており、また、「地域を学ぶ」から「地域で学ぶ」という事を進め、地域もしっかりバックアップされています。

えびの市のまちづくり協議会は、

中学校区単位で設置されており、自治会、PTA、高齢者クラブ、民生委員、児童委員など地域のさまざまな人々によって構成されています。同協議会に対するえびの市からの支援として、活動拠点の設置、集落支援員の配置、運営交付金の交付があり、また地元企業からの寄付もあるとのことでした。

【所感】

移住支援においては、松浦市のポテンシャルを最大限に活用しながら、移住者を受け入れる地域の体制整備が必要であり、松浦高校の支援においては、近年、生徒数が若干の増加傾向にありますが、学生寮を整備することで、市外からも選ばれる高校に繋がると感じました。今回の行政視察での学びを今後研鑽し、松浦市の市政発展につなげてまいります。



宮崎県えびの市 議場



宮崎県立飯野高等学校
研修の様子

【文教厚生委員会】

令和6年11月6日から8日の3日間、高知県香美市（国際バカロレア認定校について・学校給食調理場運営について）と香川県東かがわ市（小中一貫校導入について）において行政視察を行いました。

【高知県香美市】

国際バカロレア（IB）とは、世界中どこにいても同水準の教育を受けられることができ、必要な条件を満たせば世界各国の大学への入学資格を得られる学習プログラムのことです。

香美市では初等教育プログラム（3歳～12歳対象）において児童数の減少や、子ども達が自身の地域のこと（地域の良さや愛郷心）に対する知識が乏しい等の現状を打破するために、プログラムの基本理念である保護者・学校・地域が連携して子

ども達に教育の機会を提供する「よってたかって教育」を行っています。本市にIB教育を照らし合わせた場合、コミュニティスクールを構築することが重要であり、その必要性について今後さまざまな機会を用いて市民全体に周知していくことが必要であると思います。

香美市は、市内3カ所にある学校給食調理場の運営の一部、調理、運搬業務を民間へ委託しています。委託により給食業務の特殊性である長期休みにおいて、稼働日の限定に伴う職員の確保の難しさが解消され、コストの削減も図られています。

本市も給食材料費の単価高騰、児童生徒の減少による調理場運営のランニングコストに対する費用対効果等を勘案し、今後の学校給食調理場の運営について、民間委託の導入も検討する必要があるのではないかと考えます。



高知県香美市
研修の様子